

計画者	NPO法人大雪山自然学校 旭岳自然保護監視員		<input type="checkbox"/> 計画箇所について、計画者と事業執行者が同一である場合はチェック	
担当者	氏名	藤 このみ	電子メール	fuji@daisetsu.or.jp
			電話番号	0166-82-6500
対象箇所	姿見の池園地 夫婦池間階段付近			
作業の目的	施工予定箇所周辺は道が斜面を横切するため、雪の重さ等により斜面谷側の方へ土砂の移動がある。路面が低下して山側にある木柵土留めの下部が削られており、更に木が腐ったり傾いたりしている。木柵の劣化や下部の土砂流失が進むと山側の植生帯が崩れる可能性がある。また歩行面が斜めになったり石が露出して、歩行路が狭くなってきている。植生の維持と歩行路の確保のために段差処理と土留めを兼ねた石組みを設置する。			
利用する工法	分散排水工	床止工	土留工	マルチング工
	路面処理工	段差処理工	植生基盤工	その他()
作業予定日時又は期間	9月12日頃～		参加予定人数	2～5人
			参加者内訳	参加者の一般公募 実施する <input type="checkbox"/> 実施しない <input checked="" type="checkbox"/>
安全対策 (保険の適用、連絡網の整備等)	旭岳自然保護監視員は労災保険。ボランティアはボランティア保険に加入。			
主な資材とその調達 (予定)	資材	数量	調達方法	
	石、礫、土	1m	現地採取 搬入(計画者の自己資金・寄付・その他)	
			現地採取/搬入(計画者の自己資金・寄付・その他)	
			現地採取/搬入(計画者の自己資金・寄付・その他)	
			現地採取/搬入(計画者の自己資金・寄付・その他)	
道具の貸し出し希望 (自然保護官事務所・森林管理署)	物品	数量	希望先	貸出予定日時
				返却予定日時
位置図(地形図、国立公園の公園計画図、国有林又は道有林の施業計画図など)	登山道管理水準			
	保全対策ランク	A・B・ C ・D		
	利用体験ランク	1 ・2・3・4・5		
	<p>荒廃は進行しており、土留めの破損や歩行路の侵食も起きている。この箇所の荒廃を止めることは難しいため、新たな荒廃箇所を作らないための施工とする。</p> <p>周辺には段差処理がされているが、継続的に土砂の移動があり、階段や周辺への影響が見られる。グレード1の基準に応じた歩行路を確保するために必要な施工と考える。</p>			
※事務局記入欄				
国立公園	保護規制計画:	特別保護地区		
	利用施設計画:	姿見の池園地		
土地所有	事業執行者:	北海道	担当部署:	上川総合振興局環境生活課
天然記念物	国有林・道有林・その他()	担当部署: 上川総合振興局南部森林室		
	該当あり・該当なし	担当部署: 東川町教育委員会		
備考				

課題(問題点・作業の必要性)／ねらい・目標

課題1、山側(写真向かって右)にある木柵土留め下部の土砂流失を防ぐ。

課題2、石が露出し斜めになった歩行路に段差処理を行い、歩行面を確保する。

段差処理は石組みで行い、各段差が木柵下部の土留めとなるように配置する。

施工方法(見取図、写真等)



備考

課題(問題点・作業の必要性)／ねらい・目標

施工方法

施工予定箇所



- ・石組みを斜面に対して斜めに設置し、縦・横双方向の土留めとする。
- ・石組み上部を、石・礫・土砂で充填し、歩行路とする。
- ・石組みの側面を木柵土留めの下部に配置し、土砂の流失と木柵の倒壊を防ぐ。
- ・落水による洗堀を少なくするため、石組みの高さは低く設定する。



石・礫・土砂

備考

施工予定箇所より10メートル上部に分散排水工があり、一度に大量の水が流れることはほとんどない。

課題(問題点・作業の必要性)／ねらい・目標

施工方法



土石採取予定箇所（涸沢）

備考

昨年度の施工状況と評価

付近では2018年に段差処理を主な目的として、類似した施工を行った。
 この場所では雪の重さと移動により、階段の木柵が外れやすい。
 また木柵を鉄杭やカスガイで固定しているため、鉄杭が曲がったりカスガイが抜けたりする。
 雪の重さを分散させて影響を少なくするため、土留めの木柵を石組みに変更した。



2018年 施工前



2018年 施工後



2019年 現在

2018年施工箇所では現在のところ施工した石の緩みはなく、施工によると思われる周辺の変化もない。
 今後積雪状況や雪融けの影響により破損する可能性もあるが、この場所では木柵土留めより適していると考ええる。

備考